

第2回 小中一貫教育懇談会

- 1 開催日時 平成25年3月19日 19:05～21:00
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 テーマ 生駒北小・北中学校における小中一貫校の設置について検討し、懇話会として一定の方向性を出すための会の進め方や取組内容について
- 4 出席者 小柳和喜雄（奈良教育大学教授）、大野誠（生駒北小学校育友会会長）、影林保志（生駒北中学校育友会会長）、森田由紀（打田・高船保護者代表）、窪田博明（久保自治会会長）、十文字良明（生駒北小学校長）、安達光男（生駒北中学校長）、井上重樹（生駒市校園長会会長）、富山二郎（生駒北小学校教諭）、政岡俊伸（生駒北中学校教諭）

（事務局） 峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、吉村教育指導課課長補佐、前田教育指導課指導主事
- 5 開会あいさつ （峯島部長）
- 6 事務局より
○懇話会の運営についての説明
(1)懇話会出席者：各団体の代表として出席を依頼。よって団体に所属する者の代理出席可能。会長職等を離職しても参加できるが、団体を離れると出席できない。
(2)教育委員会の役割：事務局として参加。協議内容に関する質問に回答。
(3)懇話会資料：会議開催までに事前に参加者に配布。
(4)懇話会だより：会議内容のダイジェスト版として作成。参加者に内容について確認を取り、了承を得た上で北小と北中の保護者に配布。自治会にも回覧。
(5)議事録：懇話会終了後できるだけ早く生駒市ホームページに掲載。
- 7 意見交流
座長：懇話会は各団体が小中一貫教育についての意見を出し合い、方向性を考えるもの。
参加者：北中では年度が替わるまでに育友会としての考えをまとめるため、保護者にアンケートを行った。小中学校双方に子どもがいると小中一貫教育への関心は高いが、中学校にしか子どもがいないと関心が低い。小中一貫教育を理解していない保護者が多く、タウンミーティングや説明会をもっと開いてほしいという声が多かった。
参加者：北小でも保護者にアンケートをとった。が、説明会に行けなかった保護者は小中一貫教育について分からないようだ。そのため説明会をもっと多く開いて欲しいという声がある。また、一貫校にするよ

りも子どもを増やすこと・学力向上・校舎改修の3つが先決ではないのかという声があった。子どもが少ないのでクラス替えがない、コミュニケーションがとれない、学力は低い、一貫校にすると進学できた実感もない、つまり、このままでは社会に適応できない人間の大量生産になるのではないか。

参加者：打田高船の小学校保護者の多くは情報が少なく不安を感じている。疑問もたくさんあるので説明会を増やしてほしい。また、小柳先生から直接話を聞く機会を設けてほしい。

座長：中学校、小学校、打田高船地区で行ったアンケートで、保護者がどんな思いを持っているかがわかってきた。

参加者：説明会不足なので教育委員会がもっと小中一貫教育について魅力あるアピールをすべき。どんな大人になるよう子どもを育てていくのかを論議してこそ小中一貫教育の話ができる。スクールゾーン構想を提案した市や教育委員会が小中一貫教育の魅力をアピールすべき。

座長：小中一貫校を作ることが目的なのか、小中一貫校を作るのは子どもを育てるための手段なのか、ということか。

参加者：小中一貫教育はチャンス。ピンチを乗り切るためのチャンス。今、小学校では各学年1クラスと特別支援学級が2つあるので県費教職員の定員は12名となっていて専科教員を置くことができる。来年は特別支援学級が1つに減り、再来年はそれがなくなる。そうすると配置される教員は8名になり、校長・教頭と学級担任だけで専科教員を置くことができない。専科教員がいないということは、何かあったときに動ける教師がいなくなるということ。子どもに直接関われる教員が学級担任だけになる。

参加者：小中一貫教育についての情報が生駒市南地区には伝わっていない。北小と北中で実施したアンケートによれば、保護者はあまり小中一貫教育に期待していないように感じた。

参加者：卒業式を見ると小学校も中学校もきめ細やかな指導が行き届いていると感じた。しかし、小学校と中学校では文化が違う。中学校が小学校の、小学校が中学校の教育に立ち入ることで、教職員が得るのは大きい。仕事としては魅力がある。

座長：小中学校長からは、小中一貫教育を行う価値はあるという意見が出た。壁はあるがチャレンジしていく価値がある、ということ。教職員はどう考えているのか。

参加者：小学校教師にとって中学校の教育は分からないことが多くて不安。来年度からは学級数が減る。専科教員がなくなれば1学級を一人の担任が全て教えることになり空き時間がない。学年会計の処理、社会見学の手配、トラブル対応など学級担任の仕事量は多く、専科教員がいないのはしんどい。今置かれている問題は子どもを増やすこと。小中一貫教育にチャレンジすることも大事だが。

参加者：教育長が前回の懇話会で、この場合は結論を出す場ではないと言ったが、それはひどく乱暴。保護者の声を知りたいといっても、保護者には賛成か反対かを判断する情報がない。生駒市からの情報だけ。しかしそれは小中一貫教育に賛成する情報のみ。小中一貫教育に反対する情報はない。座長は賛成派。教職員からは、一方的でコンセンサスのない提案なので一旦白紙撤回を要求する、という署名が出たはず。北小と北中教職員の9割が署名した。また、市には400名の教員がいる。一貫校が子どものためになるかについては、学識経験者でも意見が二分している。小中一貫教育は12年ほど前に財政難だった広島県呉市で始まったばかりであり、実験段階。着手するのはまだ早い。校舎の建て替えという問題が小中一貫教育の実施という問題に飛躍した。人口の減少にどう歯止めをかけるのが根本的問題。しかし教育長は小中一貫教育は人口増に結びつかないと言う。また、学力向上に直結するものでもない、と。

座長：情報不足というのが全員一致した意見。情報を提供していくことが必要。私は推進派ではない。誤解がないよう、違った立場の人に来てもらい、話を聞くこともいいのではないか。また、小中一貫教育を推

進んでいる学校で、生駒北中学校の規模とよく似た学校を視察してはどうか。小中一貫教育に反対する学校を見るのは難しい。

参加者：一貫校のメリットだけを聞かされるので不信感を抱いている。デメリットも提示してほしいし、実施校保護者の生の声も聞きたい。推進派でも反対派でもなく、中立の立場の者が前で話すようにしてほしい。市で小学校と中学校の保護者に共通のアンケートを実施してほしい。

参加者：説明会を開いて情報提供してほしい。そうすれば関心度や理解度が上がる。アンケートは市が中心になって実施して欲しい。幼稚園や保育園の保護者がこれについて興味関心を持っているので参加者に加えるべきではないか。

参加者：月1回の会合で10月に結論を出すのは早い。中学にしか子どもがいない保護者は小中一貫教育が実施されても通学することがない。それよりも小学校入学までの子どもを持つ保護者から意見を聞くべき。

座長：情報を提供するための説明会について、スケジュールを組み、具体的日にちを決定すること、懇話会参加者に将来学校に通わせる子どもを持つ人を加えること、この2つがまとまってきた。

参加者：新しい学校文化を創っていくには学校と地域と保護者が三位一体となることが必要。学校任せの風潮ではいけない。

参加者：子どもの人数が少ないこと、これが共通の課題ではないのか。高山の魅力を発信する方法、高山から出て行った子が戻ってきてくれる方法、家を建てやすくする方法など小中一貫校の実施とは違ったアプローチでの話し合いを同時進行してほしい。

座長：街づくりにかかわることが話題に上がってきた。京都大原学園はボトムアップによりできた小中一貫校。人口が減少して学校がなくなるところだったが、地域の住民が立ち上がって一貫校を作った。

参加者：生駒市民憲章を適用できるのは高山地区。持続可能な社会を目指した人材育成、特に先端技術大学院大学は世界にはばたく大学。

座長：高山を生かす街づくりとして教育を考える。そうなれば打田高船地区からもっと子どもが来るのでは。

参加者：北中学校は子どもの数が減少してクラブ活動が少ない。それで田辺中学に子どもを通わせようとしている親もいる。一貫校にするよりも教員数を増やすことに力を入れて欲しい。また、打田高船はよそから来た人が家を建てられる環境ではない。家が建てられるようになり、子どもの数が増えることを望む。

座長：「街づくりと学校」について意見が出た。子どもを増やすことについては担当する部署が違う。教育だけの問題ではない。

座長：話し合いのポイントをまとめると、保護者が判断できるような情報を提供する機会を作ること、秋に結論を出せるようにスケジュールを組むこと、アンケートを再度取るためにその内容を検討すること、高山地区とよく似たタイプの小中一貫校を視察して子どもや先生の姿を見たり保護者から意見を聞いたりの機会を設けること、になる。子どもの数を増やす手段として小中一貫校設立があるなら、構想に説得力がある。

参加者：高山地区だけでなく全市的に情報提供を。そうすれば人口減少に歯止めがかかるかもしれない。高山地区の住民の思いを発信すべき。

参加者：魅力ある街づくりの1つに一貫校がある。小中一貫校ありきではない。街づくりが課題である。

座長：生駒市は丁寧な取組を行っている。市の教育ビジョンを提示し、小中一貫教育について地域住民の考えを聞いた上で実施しようとしている。生駒市は地域住民と一緒に小中一貫教育を考え、地域住民の要望に応えようと話し合いをもっている。

8 事務連絡 (事務局)

次回の懇話会は、4/24(水)生駒北小学校にて 19時から 21時まで。

9 閉会あいさつ (峯島部長)